



西川監督から贈る言葉



野田は、セレクションに参加した時に外野手以外に守れるところがあるかと、一塁手にチャレンジしましたが、いきなり股間にボールを当てリタイヤとなりましたが、得意とする打撃では右に左にと快音を響かしていたのを思い出します。

野田は、肩や肘、怪我との戦いも多く、特に気温の低下からか春先にはボールが投げれないといった状態が続いていましたね。

一度ボールを捕りに入って前のめりに倒れて、記憶が飛んでしまい「自分が誰か分からない？皆の名前が分からない？野球をやってる？」といった騒動もありましたね。

ただ、野球に対する取組み方は立派で、守備が苦手なのを当時の山下の守備どりを参考にしながら常にポジショニングを変えていましたね。

入部一年目だった奈良県知事杯の大和高田戦の決勝戦では、代走から守備につき見事なポジショニングで難しい当たりを当り前のように捕って優勝に貢献してくれました。

また、一昨年の第40回のクラブ選手権大会では、負傷した山下の代わりに出場し決勝戦では3打数3安打3打点と大活躍して3度目の優勝に大きく貢献してくれました。

去年はチームの首位打者に輝き、今年はレギュラーに定着するかと思いましたが、肩の関節炎とまたも怪我に泣かされました。

また、見た目の風貌とは違い「熱男」でベンチから人一倍高い声で選手たちを鼓舞し時間を見つけては、ベンチ内でバット持って、構えてと、いい意味での「野球バカ」でした。

これから、新しい人生のスタートに立ちますが、何事にも情熱をもって取り組み、やがては「指導者の道」も考えながら頑張ってください。